

山陰道「静間・仁摩道路」

現状と課題

■災害や線形不良箇所の問題が集中

国道9号の静間～仁摩間の現道は、平面線形、縦断勾配の悪い区間が連続しており、死傷事故が多発している状況となっています。また、代替線路がなく、多くの要防災対策箇所や地すべり防止区域が隣接しているところから、交通事故や災害等の発生により、日常生活はもとより、地域の経済活動に多大な支障をきたしています。このような問題を解決するため、平成21年3月より「静間・仁摩道路」として事業化されました。

事業概要

■路線図



仁摩IC(仮)から東を望む



静間IC(仮)周辺

今年度の事業

■静間・仁摩道路

平成22年度は調査・設計を行います。

期待される整備効果1

■交通事故の減少と渋滞の緩和が図られます
事故や災害等により通行止めが発生しても大幅な迂回の必要がなく、安心して日常生活を送ることができます。

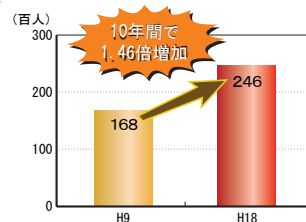


事故による通行止め(大田市静間町)

期待される整備効果2

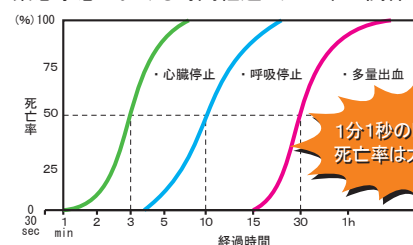
■一刻を争う救急活動を支援します

静間・仁摩道路を利用することで、救急患者を迅速かつ安静に搬送することができ、救急医療活動が支援されます。



急カーブが多く安静搬送に支障

緊急事態における時間経過と死亡率の関係 (カーラー曲線)



緊急事態が重大であればあるほど、迅速かつ適切な処置をしなければ死亡率が増加します。

■心臓停止後約	3分で50%死亡
■呼吸停止後約	10分で50%死亡
■多量出血後約	30分で50%死亡